

説例へはウキリスの地溝成因に關するリフトとランアの考へ方デーリーの火山活動の本原に關する説及び造山作用の下滑説の如きを盡してゐる。多分下巻にてはウエゲナーの説等の簡にして要を盡した説明を得る事と思ふ。著述の標準は中等學校教授者、文檢受験者にありと著者は言明してゐるが大學の學生のみならず、専門學者にて地學一般新潮に後れがちの者にも全く良參考書である。

本書に於いて嬉しい事は常に讀者に親切である事で、説明の方法、文章に十分の注意が拂はれてある事である。特に嬉しいのは術語の定義が可なり詳しく説明されてあり、本文に於いて不足の分は脚註にて補はれてある事である。又同義語は一々詳述して缺くる所が少い。定義の學者により異なるものは一々説明してあるので讀者が迷はせられる様な事がない。更に進んで術語の語源を脚註に加へてゐるのは著者に親切がなければ出来ぬ相談で他書に類例が少い所である。挿畫は多い。之は多くは外國書より寫したものであるらしいが斷りがない。しかし我國の出版界に於いて通例しない事だから著者を難するに當らぬ。

第一篇天文地理學は蓋し本書中最も優れた部分であつて他の地理學者の余て及ぶべからざる所である。著者は天文學に少年時代より多大の愛好心を持ち大學も本人は星學科に入りたかつた位で學生時代卒業後も此方面の研究が唯一のホッピイであり、度々の著述の動機も決して小使取りではなくて此

清い道樂に奉仕せんが爲の資金、即ち私立天文臺の設立費の自力による調達にある。一二四頁までは天文學の要約を述べ次に二五四頁迄に所謂數理地理學の主たる天體としての地球、季節、曆の事、地磁氣、地球の内部、アイソスタシー、放射能の諸問題等を詳述してゐる。第九章には地圖學を扱ひ種々なる投影法の要を得た説明をなしてゐる。第二篇は陸界地理學であるが良くも此だけ多くの事項を網羅したかと思へる程であり、懇切にて嚴格なる文章を以て記されてある。本書には決して押し付けがましいドグマ自説はない。公平に有力なる學說を集め其簡易なる解説を加へてあるので參考書としては最も穩健である。著者と雖、此様な概括的學問に於いては得意でない部分もあるだらうし、其場合には序文に擧げてある參考書から苦しんでデツチ上げたものであらうと想像せられるけれども、一寸の尻尾をも捕へ得なかつた。之は餘程の勉強で困難に打ち勝つたもので、著者の努力には全く感心させられた。(横山次郎)

## 雜報

### ○北滿洲のバタ

北滿のバタを工業化したものはロシヤ人である、革命に際した後バイカルの白系ロシヤ人はアルゲン河をこえて北部ホロンバイルの吉拉林地方に移住して時をまつたが、ソウイェットの政府が強くなつてゆくので、歸國が

出来なくなつた、そこで一九二一年から牙克石、根河、特蘭布勒哈布爾及蒙爾格勒河流域に移住して牧畜を本業として、各戸で牛酪をつくつたが容易に賣却が出来ぬので苦しむであつたところ、ハイラルに居住してゐたウオロンツォフがこれに着眼して牙克石背後地及三河地方(前記諸地)の牛酪工業を計畫し一九二四年以後三ヶ所に工場を設けた、冷蔵庫に牛乳を貯へるやうにして買集めると同時に、一方雜貨品を右の農民に供給しはじめ、年産九、〇〇〇布度を生産するやうになつた、只今では殆ど獨占的であつて、其事業は成功し、工場は十八部落に存在してゐる。

産品は東華鐵道によりて集散しその價格は

- 一九二七年 一布度(三十六ポンド) 三二、大洋圓
- 一九二八年 同 四五、
- 一九二九年 同 六〇圓

といふ次第であるが、これは大洋銀の下落による結果である三河地方は地味豊饒にして青草繁茂し、清水に富めるところで、目下二十二部落が出来、大なるロシア部落は七十戸にも達してゐる。

牛乳から同じバターをとるにしても、時期により脂肪の量がちがうから一様ではないが、四月から九月までは乳の量が多いので、朝夕二回搾乳してゐる。

牛酪一布度の原料は牛乳二十布度乃至二十二布度である、哈爾濱では二十五布度の牛乳を要する、その牛乳代はハルビ

ンで一フロントが一元七〇錢であるが、牛酪は一フロント一元三〇である故に、ハルビンでは牛酪をつくつても引き合はない。しかし三河地方では一布度の牛乳を一元でかひうる、外に製造費五元として生産原三〇元(二十五布度の原料)これをハルビンへ運んで運賃三元とみて、三三元の原價それが四二元にうれるとすると九元の利である、乾酪の製造は牛酪よりも部留りがよいから、この方も將來は盛になるであらう。

日本でやると牛乳一升六錢とみて三十ポンドの牛乳から一ポンドのバターがとれる、七升四合三勺の牛乳代四十四錢六厘これに製造費十錢を加へて原價五十五錢となる従つて日本で牛酪を作つても、とても呼倫貝爾一帶のやうに發達は出来にくいであらう、従つてウオロンツォフのやうに、一方貨物をうつて、牛乳代と差引する場合、二重の利を擧げてゐるのであるが、かうした利殖の好い事業が北滿に於てもあるといふことを知つておきたい。

### ○獨逸の時計工業

ドイツに於ける一箇年の時計生産は約千八百萬個、この卸價は九千萬マルク乃至一億マルクで内六千萬マルクを輸出する、約二萬人の就業者がある、瑞西では精巧な小型の時計が出来るが獨逸は大製で、目覺、壁掛置時計、家内立時計、臺所用時計等がつくれ且、晷時計は年に九百萬個以上に達する、安値で實用的のものを主とするので懐中時計と雖も一年に三百萬個はつくると、其外にコントロール時計、塔用時計、電氣時計等が盛につくられる。

其生産地はミュワルツワルド地方の東南地方ドナウ河及ネツカー河の水源地方に集中し、獨逸の時計工業者の八〇%がゐる、ヴュルテンブルクのシラムベルク及シヴェンニンゲン及トリベルグは時計製造地として發展した。大型時計はフライブルクを中心として昔時盛んにやつたものであるが今日はミュワルツワルドの方に移つた、ホツケホン、ウルム、ライプチヒ、シヨナツハ、プア等は塔用時計の製産地である。

大型時計一千五百萬個といへば世界では第一位である、瑞西は懷中時計二千萬個二億五千万法で第一位をしめ、北米合衆國は大體千三百五十萬個三千二百萬弗で第二位、懷中時計は千六百萬個五千萬弗であるから第二位、しかし兩者を合計すれば米國こそ世界第一位の時計生産國といはねばならぬ、しかし米國は其大部分を國內需要にあて、輸出は僅に千五百萬マルクにすぎない。この點獨瑞二國とは様子がちがう。

佛國では三千五百萬マルク乃至四千五百萬マルクの時計を生産し、日本は大戦中に時計工業大に發展し日覺時計は一九一四年に四百萬マルクであつたものが一九二九年約千二百萬マルクに増進した、伊太利にも二大時計工場がある、日覺時計百五十萬個を生産する。

蓋し時計工業は其生産費の三〇乃至三五%は手に待たねば出来ない、全然器械的の工業とはわけがちがうのであるから日本も亦獨逸にならつて大に斯業の發展を期すべきであらう

### ○埼玉震災に於て飯能、寄居間被害踏査概報

昭和六年九月二十一日午前十一時二十分突加激震あるや、震源は比企郡玉川村と同郡小川町の間なり或は大里郡寄居附近なりとの説あり、何れも是れ建設中の八高線鐵道の線路經過地なれば、其の災害の概要を直ちに調査せり。

本稿は、その記録にして短時間の作成なれば甚だ簡單なり幸に諒とせられんことを。

飯能——微かに地鳴りして激しき上下動あり、時計止まれる處もありて人屋外に奔出す、餘震の激しきもの數回ありき電燈、電話に異狀なし。

入間郡山根村堀口附近の工事中の築堤に巾十糎の龜裂を生ぜるあり。

越生——電燈異狀なし、電話は不通となれり、家屋土藏の壁に些か龜裂生ぜるものもあるも其數尠少なり。

震源地にあらざるやと一時目されたる玉川、小川間何等異狀を認めず、唯僅かに比企郡明覺村番匠の諏訪神社のコンクリートの鳥居にヘヤー、クラック無數に入り。又同郡大河村青山地内の道路に些か龜裂生ぜるを見しのみ。

小川——時計止り、棚のもの少しく落下し、二階の壁剝落せる家もあり、電燈異狀なかりしも電話は全部不通となれるも午后五時三十分に至り寄居と僅かに通話し得るに至れり。家根瓦落下し土藏に龜裂生ぜるもの些か多く練瓦積の煙突屈曲して危險状態に至れるもの及び及び龜裂の入れるもの一二あり外に土藏半壊一、崩壊一、あり





マイアミー・キニバー・ポート・オブ・プリンス(ハイチ)―サン  
トドミンゴ―サンフアン(ポルトリコ)―サントトマス―ポー  
トオブ・スベーン(トリニダード)―パラマリボ(ギヤナ)―ベ  
ン―サンルイス―フオールタルザ―ナタール―レンフエ―  
パイア―ヴィクトリヤ―リオデジヤネイロ―サントス

航空日数はリオデジヤネイロ、及マイアミ間、七日同ベレン三  
日間である、旅客一人の手荷物十四キロまでである、八臺の  
機械を運轉し内ドルニエールウエール一臺、ドルニエールメ  
ルクルール一臺、他はコンドル機である、猶この線路にはボル  
トアレグレ、ペロータス及リオグランデ間二百九十キロを連  
絡する内國會社の航路が附屬してゐる。

○英國の綿業と人口の移動

一九三一年度英國々勢  
調査によれば總人口三千九百九十四萬七千九百三十一人にし  
て、十年前の人口に比し二百六萬三千二百二十二人の増加より  
該期間の増加率五分四厘四毛に當る。統計による人口移動を  
みるに國內産業の盛衰を如實に語り、一九二〇年來衰頽に傾  
ける綿業は其労働者を南方に驅逐し居れり。

ランカシャ主要綿業都市人口増減

ブラックバーン	一九二一年	一九三一年
ポルトン	二六、六三三	二三、六五三
ブルンリー	一七、一五五	一七、一五五
ブリー	一〇、一八六	九、一八六
	五、一六〇	五、一六〇

マンチエスタター	七五、七五	七六、三三	(増)
オールドハム	一四、九六三	一四、〇三〇	(一)
ブレズトン	一七、四〇六	二、八元	(増)
ロックダール	九、八六	九、三六	(一)
ウイガン	八、四三三	八、三三	(一)
アツクリントン	四、七五	四、九五	(一)
コールレー	三、五	三、七五	(増)
ファンウオーズ	二、八五	二、七二	(増)
レル	四、五三	四、三三	(一)
ネルソン	五、八四	五、〇六	(一)
ロイトン	一七、元四	一七、六六	(一)

猶ランカシャ州にて人口五萬以上を有する都市十七のうち、  
九市は四厘乃至一割六厘の減少となつた、その九市のうち、  
八市までは綿業市であるから、いかに綿業の不振が人口に影  
響したか々明である、さうして女の方の減少が高率である、  
今各市についての觀察を下さんに、Salford(四分五厘減)一  
萬六百三人へつた、各工場の職工が中部や、タービーの人情  
工場に移つたからである、又この市の郊外も近くで建増がで  
きぬからだといふ。

Rochdale(六厘減)この市は五百三十八人である、人絹工  
場中部の自動車工場其他へ轉職したのであるが、これらは再  
び歸つてこないであらう。

Burnley(四分八厘減)四千九百二十七人もへつた、航空機  
工場、自動車工場といふ方へ流れて行つた。  
 Burny(四分減)二百十七人もへつた、ここのものが比較的少

數であるのは愛郷心で外へ行くのをすかぬからだ。

Oldham(三分二厘減)四千六百七十四人へつた、七割五分までは歸つて來ないらしい。

Wigan(四分五厘)四千六十四人へつた、出生率がひく、郊外に轉居したものが多し、炭鐵工夫はヨークシヤへうつてゐるが景氣が直れば歸るであらう。

Blackburn(三分二厘減)四千二百七十七人に達した。

Boltonも二千四百三十人の減少である、猶最近にはこの上にも減少した筈である。

以上によつて、いかに英國が不景氣であるかわかる。これは他人事ではない、あまり贅澤な人民は、遂には苦まねばならぬのだ。(F)

## ○ソヴィエツトの北滿洲に於けるタンピング

哈爾濱ではソヴィエツト聯邦品の廉價なる進出に於て著しく注目せられ就中織物シンデゲート、石油シンデゲートの活動が目覺しく感ぜられる、勿論聯邦輸入品は金額に於て優勢ではないが織物ではロシヤ更紗は古くより品質優良であつたが目下一米突金十八錢乃至六十錢で、ロシヤ全國相場よりも安い、従つて南滿洲及中華民國方面に移さるゝものが多い、帆布類は品質日本品に比して劣るけれども價格は二三割分安い麻製品はテーデル掛のごとき品質もよい、價も安い。

石油シンデゲートはスタンダード及シェル兩者の間に介して一等品二罐一箱十六元四十仙、二等品二十仙安にうつて

ゐるが、スタンダードの十七元に對抗してゐる、揮發油とシエルの二十一元九十仙に對し、二罐一箱廿一元三十仙乃至三十仙といふ安價で競争してゐる、そこで昭和六年一月より三月までの間に輸入額五十二萬七千四百五十兩に上つた、ハルビン通商代表は、昭和五年秋、極東林業、極東石炭、ゴムトラスト、烟草シンデゲート等を一括してキタイスカヤ街に陳列場を設け陶磁器、衛生器、硝子製品、ゴム管、タイヤ、セメント鐵板、レール、トタン引鐵板、菓子、酒類、海産品、マツチ、毛皮、烟草入等種々雜多の貨物を陳列販賣してゐる、この中レールは品質ことに脆弱である、鉛筆は獨逸品、米國品に及ばず、たゞ價格の點に於て顧客吸集の強味がある。

煙製河魚と魚卵、サモワル(湯沸)白樺材烟草入毛皮ことにリス皮はロシヤの特産で一手供給の觀を呈してゐるが、烟草は品質がわるい。

以上主として本邦の對滿貿易に重大なる影響を來たす惧のないものではあるが、その内綿布、石炭、陶器、硝子、アルミニウム製品、建築材では北滿での我販路を蠶食したものとみるべきである。

陶器は食器皿、灰皿、花瓶、茶碗等本邦品よりも二三割安値に卸賣されてゐる、衛生器具は五割方安いから、水洗式便器本邦品十三圓五十錢に對し彼の品七圓五十錢で對抗してゐる、セメントもスバスカヤ産品の流入により我小野田の製品も驅逐されるかもわからない。

要するにソ聯邦品は特殊のものを除き一般に品質粗悪であるが、所謂ダンピング施行の目的が五ヶ年計畫に含まる各種商工業の施設に要する外國よりの材料購入代を外資吸收で償還すると同時に資本主義國の經濟を破壊せんとするにあるは一般識者の肯定する所である、ことに生産に當り一切の國內の資源を一手に收め國民として強制勞働に服せしめてゐるのであるから他國もこれに對抗するのに骨が折れることである當地貿易代理部はあらゆる高品を他國品に比し常に二割五分安に賣るといふのである。かうしたロシアの進出に對する本邦の覺悟は出來てゐるかどうかといひたい。

### 質疑應答

問 河南省の周家口と漯河の胡麻。

答 河南の大平原に滎澤縣から流れて出る賈魯河といふのがある。これは昔黄河の一支流であつた滎蕩渠で、漢初の鴻溝といふものゝ跡であるが、史記河渠書にこの水運によつて宋鄭陳蔡曹衛と濟汝、淮泗、皆楚に會すとのべた通り、昔は中原水運の中軸であつたが、今日は昔程に水がないけれどもその地理的事情に變化がないから、この賈魯河と沙河の會點にある埠頭の周家口といふ所は、この平野の中心市場になつて人口二萬繁榮してゐる。民船は、年中通るが、夏期の増水期には、海船が通つて京漢線の郟城驛に連絡する、その間約一六〇支里である。河を挟んで北寨、南寨、西寨の三區より

成立し、附近には牛、馬、驢、山羊、綿羊等の飼養が盛であり、水運によつて安徽省の茶及絹糸の外農産には金針菜といふ名物を出し、また杞柳の籠をも集散する外に、胡麻の一大集散地である。ところがこゝを流れる沙河の上流は漯河ともいひ、西の方に郟縣城下に達すると、そこに漯河といふ埠頭が出來てゐる。従前は左程でもなかつたが、京漢鐵道が出來てからこゝから、漢口への交通が開けたので、七月中旬、地方はまだ收穫期に入らない時に、一夜三百數十隻の雙船が、鐵橋下遙に低い河岸に連るといふ河港となつた、故に今日では胡麻の大集散地は、周家口でなくなつて漯河である。河南の胡麻は駐馬店、漯河、周家口、郟城、遂平、確山、明港等鐵道の沿線に集まつてくるので、それが漯河のやうに、河と鐵道交叉地であると取引が最も活潑になる。遂平、確山、明港のいづれも小さい民船の便のあるところである。淮水といふ河はその源流が低い山で、流が緩であるから、夏期増漲期になると餘程輿地まで運搬の便を供給する。何れにしても古來河南は天下の中心であつた丈けに農産物は多い。胡麻の如きも支那第一で作付三百萬畝に達し百七十萬担を産する、湖北は之について百二十萬畝を作り、胡麻百萬担を出すといふことである。猶河南の胡麻は一名茶胡麻といつて、黒や白に比して、含油量が最も多い。毎年九月から十月に出廻はつて、周家口から漯河其他に集り、漢口に仕向けると同時に、漯河から周家口をへて、淮水の便によつて鎮江にも送られる。